

## ◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：上町ホタルの会  
代表者：会長 松本 隆太郎  
URL :

23A-02

### 1. 活動が必要とされた状況

秩父市押堀川井戸尻地区のホタルが、徐々に地元町内から市内外に認知され、観賞に訪れる人が増えてきた。これまでの自然環境整備活動とホタル育成の経験値の蓄積によって、ホタル生息の基礎的な環境が整ってきたことに伴い、安定したホタルの飛翔が実現されてきた。これは約 10 年の活動の成果と自負する。当初の志である「押堀川の自然環境を整え、ゲンジ・ヘイケボタルが乱舞する住民の憩いの場づくり」に立ち返り、環境整備活動を充実させたい。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 実施時期：通年 ホタル鑑賞シーズンは、5 月末から 7 月上旬頃
- ・ 参加人数：個人会員数 35 名
- ・ 活動内容：ホタル育成の継続、月例の定期活動による除草等の環境整備、シーズン中の観賞環境の保全活動等



### 3. 活動の成果

2019 年 10 月の台風での 450 mm を超える未曾有の雨量の増水・激流の影響で、押堀川の幼虫の生息域が根こそぎ流されたことにより、従来のホタル飛翔が危ぶまれた。しかし、流域の整備やカワニナの育成、ホタル生息域の精力的な復旧作業により、昨年には若干劣るもののホタルの飛翔を確認し、回復につながった。

また、2020 年度は、新型コロナ感染による行動制限があり、ホタル鑑賞の時期の鑑賞者誘致を取りやめた。通常では観賞者への夜間での安全対策や環境保全のために人員配置を行っているが、今年度は中止した。

2021 年度は、通年のホタル飛翔を実現させるべくこれまで通り環境整備を行い、コロナ鎮静を願い、再び鑑賞に来ていただける環境づくりを引き続き行っていきたい。

### 4. 今後に残された課題

「ゲンジ・ヘイケボタルが乱舞する押堀川」のイメージと自然環境のすばらしさを維持継続するために、流域のさらなる自然環境の整備と、憩いの場・感動の場として、ホタル鑑賞の時期を中心とした環境保全を推進したい。

具体的には、一昨年経験した台風による豪雨洪水の被害など自然災害を想定した準備、事前作業などの対策ノウハウを蓄積していかなければならない。川床が流されても、被害を受けにくい対策（ビオトープ等）など、ホタル生息域の安定してカワニナ（ホタルの餌）を生息させるための環境づくりが必要である。

また、ホタル飛翔が見られる押堀川下流域未開のエリアの開拓。それに伴う観賞しやすく安全な場所の確保を図らなければならない。

